

# 令和4年度第1回古賀市スポーツ推進審議会 会議録 (要約筆記)

【会議の名称】 令和4年度第1回古賀市スポーツ推進審議会

【日時・場所】 令和4年6月30日(木) 18:30～20:00  
リーパсплаザこが交流館2階多目的ホール

## 【審議会次第】

1. 開会
2. 教育部長のあいさつ
3. 審議会成立の報告
4. 会長あいさつ
5. 議事録署名委員の指名
6. 概要説明及び議事
  - (1) 市内中学校部活動について
  - (2) 古賀市スポーツ月間について
  - (3) 令和4年度実施予定の運動・スポーツ(身体活動)に関するアンケートの概要について
7. その他
8. 閉会

【傍聴者数】 0人

## 【出席委員等の氏名】

委員：木下忠委員(会長)、吉永春男委員(副会長)、柴田麻衣委員  
井浦政義委員、大森睦子委員、石田啓委員、多田祐二委員  
齋藤光範委員、門田尚之委員、橋本洋委員、北村俊明委員、  
吉田直美委員

横田浩一教育部長

事務局：生涯学習推進課 樋口武史課長、学校教育課 島居隆浩課長  
渋田孝二参事補佐兼スポーツ振興係長、渡邊裕美子業務主査

## 【欠席委員の氏名】

中村美恵子委員、薄秀治委員、伊藤一哉委員

【庶務担当部署名】 生涯学習推進課

【委員に配布した資料の名称】

- ・古賀市部活動の在り方に関する懇談会について 別紙 1
- ・古賀市部活動の在り方に関する懇談会要綱 別紙 2
- ・「古賀市スポーツ月間」の新設について 別紙 3
- ・古賀市スポーツ行事等年間スケジュール 別紙 4
- ・令和 4 年度実施予定の運動・スポーツ（身体活動）に関するアンケートの概要について 別紙 5
- ・各世代別アンケート（案） 別紙 6～9

【審議会概要】

1. 開会

2. 教育部長のあいさつ

3. 審議会成立の報告

4. 会長あいさつ

5. 議事録署名委員の指名

（木下会長）

議事録署名委員については井浦政義委員にお願いしたい。

6. 概要説明及び審議

（1）市内中学校部活動について

【学校教育課長による概要説明】

4月にスポーツ庁が指針を出し、令和8年度から休日の部活動を完全に地域に移行するという方針が出された。古賀市でも3中学校の校長とも話し合いながら進めているが、休日だけ地域にとというのは指導的にも難しいところもあり、検討していかなくてはならない。

平成30年スポーツ庁の運動部活動の在り方に対する総合的なガイドラインが作成されたことからスタートし、平成31年3月に古賀市部活動の在り方の指針を制定した。内容は、適切な休養日の設定（平日は1日以上、土日曜日で1以上の計2日以上）、平日の活動時間は2時間程度、休日の活動は3時間程度とガイドラインを作り進めてきている。併せて早朝練習・合同合宿も中止としている。

労働基準法にて超過勤務は月45時間以内、年間360日以内に押さえないといけないという国の指針も出ており、これに向けて古賀市の在り方を検討していく必要がある。

昨年度から、お手元資料にある「古賀市部活動の在り方に関する懇談会」を設置し、2回開催した。参加者は、同じくお手元の要綱に記載の通り。今年度の1回目を7月に開催予定。

今後は、地域部活動としてやっていくことになる。どういう在り方が良いのか検討していく。

#### 【審議】

（木下会長）

説明を受け、質問や意見等あれば挙手いただきたい。ございませんか？では、ここで学校教育課長は退席されます。ありがとうございました。

#### （2）古賀市スポーツ月間について

##### 【事務局より概要説明】

毎年10月を古賀市スポーツ月間と指定し、この期間にスポーツ事業を企画・実施し参加者を促すことで、スポーツへのきっかけ作りから継続的な実施につなげていこうという取り組み。

設置の背景として、運動・スポーツを行う人・行わない人の二極化が進んでいること、新型コロナウイルス感染症の影響によりスポーツ活動を控える傾向が強まっていることがある。

2020東京オリンピック・パラリンピックの開催をうけスポーツの機運醸成が図られたこともあり、この機会に古賀市スポーツ月間を設置し、市民に改めてスポーツの意義や効果を認識し、スポーツ活動を行うきっかけにしていきたいと考える。

10月とする根拠は、スポーツ庁が10月を体力づくり強調月間と位置付けていること、国民の祝日に関する法律により毎年10月の第

2月曜日がスポーツの日と定められていることを勘案した。

スポーツ月間の期間中に企画し11月上旬に開催されるもの（市民駅伝など）もスポーツ月間の事業として位置付けることとする。

期待される効果は、体力向上や健康の保持増進、家族間や仲間同士のコミュニケーションの向上、地域コミュニティの醸成、部活動改革に伴う生徒の活動機会の確保などが考えられる。

実施形態は、古賀市生涯学習推進課と古賀市スポーツ協会が連携しながら実施し、その事業についてはスポーツ推進審議会にて報告をすることとする。実施予定の事業については、別紙4のとおり。

他自治体の取組みとしては、現在、市町村レベルで同様の取組みをしているところは見受けられず、県レベルでの実施となっている。

（参考として、神奈川県と千葉県の取組み紹介）

#### 【審議】

（木下会長）

説明を受け、質問や意見等あればどうぞ。

（斎藤委員）

令和4年から実施とのことだが、これまでのスケジュールと変わったところはあるか？

（事務局）

昨年度、月間の試行的な取り組みとしてビーチバレーやスロージョギングなどを行い好評であった。これを本格的な事業として取り入れたいと考えている。

新しい事業を入れるということではなく、まずは既存の事業で実施し、この月間のことをまずは知っていただきたいと考えている。

（斎藤委員）

月間の意味が分からない。例えば、競技スポーツや健康づくりに重点を置くなどといった明確な目標をもって月間を行うというのであれば分かりやすいが、対象が異なる事業がバラバラに入っている。

明確な目的をもって広報しないと、盛り上がらないと思うが。

(木下会長)

狙いがあるのかが明確ではなく、市民の関心を引くような内容ではないのではというご意見かと思うが。

(吉田委員)

スケジュールには10月1日から健康ポイントキャンペーン開始と記載があるが実際には、7月1日から実施する。

強化月間という意味では、健康介護課でも令和4年度から健康チャレンジ10か条推進月間を10月に定めている。県が作成するポイントアプリの普及や健康福祉まつりも10月に開催される。10か条には「動く」ということも含まれており、その点に関しては生涯学習課と連携しなければ、自分たちだけでは難しい部分がある。そこそこで月間というものを定めていくのであれば、ベクトルを合わせてみんなで取り組んでいくということが今後求められるのではないかと思う。

古賀市では、インボディの測定器を4台購入した。出前講座での測定や、健康福祉まつりでも測定をするが、その結果をもって自身の行動変容に生かしていただきたい。それがスポーツ月間につながっていけばと思う。

皆が連携しながら取り組んでいくというところでは、スポーツ月間の内容に既存のものが多いとしても、月間を盛り上げていくことが大切なのかと思う。

(木下会長)

非常にわかりやすく説明をしていただきました。

(事務局)

月間をどういう内容でやっていくのか、市民の方に示す取り組みは行いたい。

まずは、この内容で実施し、今後足りない部分があれば補うという形で取り組んでいきたい。スポーツ月間が「これだったら行ってみようか」というきっかけになればと思う。

(木下会長)

連携するということは、大切だと思う。

(吉田委員)

7月にスポーツ推進委員さんが実施される事業にも出向き、測定会を実施する。そうやって、お互いに連携すればよいのかと思う。

(木下会長)

昨年スポーツ協会が市から委託された事業の中で、HUGっ子さんと一緒に実施した。子どもたちとスポーツの連携ということもある。

(吉永副会長)

昨年度から、スポーツ月間ということ意識して事業を実施してきた。親子の触れ合いということを含め HUGっ子さんに、親子で遊べる遊び体験をやっていただいた。非常に好評で、今年も健康スポーツの日に行うようにしている。

スポーツ協会としては、健康スポーツの日あるいは月間期間中に行ったものを続けていくことが大事と思っている。

パラスポーツ体験は、健常者の方にパラスポーツを体験していただいたり、障害を持った方にも車いすバドミントンや車いすテニスなどを紹介したりすることを目的として新たに計画を立てている。

また、久保テニスコートの下に(株)にじの色さんが運営する障がい者や障がい児の方が通う福祉施設があり、敷地内にサッカーコートを作り、サッカークラブもできている。会長に相談があり、学校やいろいところろに広めていきたい。学校の中で、障がいを持つ子がスポーツをとおして楽しみや生きがいを感じさせたいとの思いで活動をされているということだった。市民健康スポーツの日の紹介をしたところ、障がい者のサッカー体験をしたいとのことだったので、スポーツ月間の事業と位置付け計画している。

市民スポーツ研修会というものをやっていたが、それを月間中にやることで、もっとスポーツの普及・喜び・健康づくりにつながるのではと考え、10月2日に大会議室で実施する。

我々としては、地域で行われている様々なスポーツ行事も区長様にお諮りしながら一緒にスポーツ月間としてやってはどうかという考えている。そこは行政と協力しながらやっていきたいと思うが、地域での行事も月間参加者とできれば。

健康・スポーツという面からみんなで盛り上げていこうという考えを持っている。

(石田委員)

ほかの団体にも声をかけてやるべきだとは思う。地域だけではなく、スポーツ団体もある。そういったところにもスポーツ月間の中に参加しませんかと声掛けし、賛同いただいた団体が実施するイベントについては月間での参加者数としていけば、おのずと参加者数は増え、協力団体も増えていくのでは。また、スポーツ月間とチラシに入れていただくなどすれば、古賀市として取り組むスポーツ月間が浸透していくのではないかと思う。

広報誌でも月間のお知らせをしないと、期待する効果まではなかなかたどりつかないのではないか。

(事務局)

貴重なご意見をいただきありがとうございます。何ができるか考えながらやっていきたいと思う。

(木下会長)

大事なところだと思いますので、柴田委員から意見はありませんか。

(柴田委員)

自分が学校で体育を教える時に、なぜ体を動かすのかという理由がわからないと子どもたちもやろうと思わないし、続けることができないこともある。

運動する前に保健の授業で体を勉強し、将来健康でずっといたいなら、苦手かもしれないけど運動を頑張ろうという指導をしている。

まずは体のことを知り、スポーツ月間に入っていければ。7～9月に企業の健康診断なども入っていると思う。その機会に自身の体を知ってもらって、プラス古賀市からもスポーツ月間の情報を発信すれば、あまりいい状況ではなかった人が、何かできることはないかと考えるようになるのではないかと思う。

スポーツが苦手な方・運動が嫌いという記憶を持っている方は、スポーツや運動することへのハードルが高い。運動＝仲間づくりというパターンの人たちもいれば、運動＝健康づくりという人たちもいる。仲間を作りやすい活動や、自分の運動レベルがどれぐらいなのか競えるところがあると、親子で競い合っ家庭での楽しい会話

につながるのでは。できないということが運動をしたくないという気持ちになってしまうので、簡単な家でできるトレーニングや、親子で遊ぶとかでもよいと思う。

10月の初めには親子遊びそこから中旬・下旬と難易度を上げていっても良いのでは。

(木下会長)

古賀市の広報は間に合うのですか？

(事務局)

間に合います。

(木下会長)

ぜひ、目立つようお願いします。

(門田委員)

継続率というのはずっとテーマになっている。ゴール地がないと途中で挫折してしまうケースが多い。

例えば、7月ごろにインボディ測定会などを実施し、3か月後の自分がどうなっているのか、自分の未来を思い描いて、10月に再度測定しどういふ変化が起こったか。結果が出るとやる気にもなるし、今後にもつながると思う。

数字がやはり一番わかりやすい。3か月後につなげるようなイベントにしていくのも良いと思う。事業を見ると実技系のものが多いように見えるが、セミナー系のものも人気がある。

目的ややり方を先にセミナー形式で実施すると、みなさん継続できるよう取り組んでおられる。

(斎藤委員)

スポーツへのきっかけ作りから継続的な実施へと促すとある。以前の健康スポーツの日は体力測定や健康チェックをやっていたと思う。そういうところでチェックして、自分を知ることがきっかけ作りになる。子どもたちもソフトボール投げなどは飛ばないようだ。きっかけ作りをやってその後どうやって継続していくか。講座などで、ボールが飛ばない・ジャンプが飛ばないということに対して

どうやったら体が変わっていくか伝えられれば、健康スポーツの日というのはとても分かりやすい。

ただ行事の羅列だけの広報が来ても、スポーツをやっていない人はわからないと思う。自分の体を知ろうとか、体力を知ろうとかそういうところから始まって良いのでは。オリンピック・パラリンピックがあったからやろうというのは大げさすぎると思う。

(木下会長)

10月2日の研修はいただいた内容を参考に実施できればと思う。良いご意見をたくさんいただいたので、これから考えたいと思います。

(吉永副会長)

中学生企画によるスポーツイベントとあるが、昨年度協議の中で、中学生に企画をしてもらった競技を一つでも入れたら、年齢層が広がっていくのではないかとの意見が出ていた。

いま、ダンスが広がってきているのでいろいろな世代の方を含めコンクールのものがないかと考えていたが、あいにく会場がすべて埋まっていたため実現困難となったという報告と、今後はこういう内容も検討しているとの報告とする。

(木下会長)

他に、よろしいですか。では、次に進みます。

(3) 令和4年度実施予定の運動・スポーツ（身体活動）に関するアンケートの概要について

**【事務局より概要説明】**

アンケートの実施スケジュールについては記載のとおり。

アンケートの対象者及び方法について、成人は18歳以上の人1,500人を無作為抽出し調査票・解答用紙・返信用封筒を発送する。回答については、回答率の向上と回答者の利便性を考え、解答用紙の返信もしくは調査票に記載のQRコードを読み取りWEBでの回答も可能とする。

小学校5年生・中学校2年生についてはWEBアンケートのみとし全児童・生徒に配布されているタブレットを使い、学校にて回答の

時間を設けていただくよう、7月期校長会にて以来の予定。

5歳児保護者についてもWEBアンケートのみとし、7月期市保育所連盟にて依頼の予定。市内小規模保育所・市内幼稚園については、個別に依頼を行う。幼稚園については、市内の在住の方のみに配布いただくよう合わせて依頼する。

アンケート項目（案）の説明の前に、事前配布した資料に誤りがあったため、本日訂正したものを配布している。

アンケート項目（案）について、調査内容は前回と同一とし、新たな項目を追加した。

「歩いてんどう」に認知度については、第2次古賀市スポーツ推進計画に指標として挙げられているため成人に対してのみ実態の調査を行う。

新型コロナウイルス感染拡大に伴うスポーツ活動への影響については、全世代に対し調査することとする。

東京オリンピック・パラリンピック開催後の意識の変化については5歳児保護者を除き調査をすることとする。

#### 【審議】

（木下会長）

何かご質問がありましたらお願いします。

（石田委員）

調査数は1,500人で良いのか。10年前は3,000人の調査に対し37%の回答率で1,111人の回答。5年前は1,500人の調査に対し35%の回答率で525の回答。今回の調査数で、社会調査として担保はとれるのか。525人のうちから性別、世代と分けていくと母数がどんどん小さくなっていく。それで、実施率を見るのはどうなのか。その調査はしたのか。1,500人とした意味を聞きたい。

（事務局）

古賀市の人口約6万人に対し、何人に調査すればよいのかという公式がある。そこにあてはめて確認をする。足りないということであれば、数を増やすことも検討する。

(石田委員)

わかりました。総合型地域スポーツクラブの認知度についての問い。これは10年前からずっとはいっているが、作るかどうか判断するために聞いていた。第2次古賀市スポーツ推進計画では、総合型地域スポーツクラブを作る・作らないは明記していない。認知度を聴く意図がわからない。計画のメインの事項ではないので外すべきだと思う。

それよりも、先ほどの古賀市スポーツ月間について、「参加したいですか」「知っていますか」と聞いたほうが認知度アップにつながるアンケートになるのではないかと思う。

また、体育協会がスポーツ協会に名称変更しているが、体育協会を認知していらっしゃる方も多いのではないかと思う。基は体育協会で、何年からスポーツ協会に変更になりましたと入れることで、両方の認知度が上がると思う。変わったんだということも含めて。その一文は入れたほうが良いと思う。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。

(石田委員)

ウォーキング大会に開催について、選択肢はすべて今までやっているものばかり。例えば、他の地域と連携した事業をやりたいとか、24時間ウォーキングとか。他の市町村でやっているようなことを入れたほうが、ニーズの掘り起こしになるはずなので、入れるべきと思う。

地域でのウォーキングイベントもされているはず。それに参加したことがあるかということも選択肢に入れたほうが良いのではと思う。

(木下会長)

地域でのウォーキングということで言えば、私の地域でもミカンがなるころにミカン狩りを兼ねて青柳まで歩いていった。そのようなことをほかの地域でもやっているのではないかというご意見です。

(石田委員)

一年間にどんなスポーツイベントに参加したかという問い。一年前を思い返すとやれたスポーツイベントがあったか？コロナ禍で施設が閉まったりして、ほぼできなかつたと思う。

数値が下がるのは目に見えているので、一年間で良いのか？比較できるのか。

スポーツの情報の入手方法について、選択肢がインターネットでは、弱い。SNSの選択肢を入れるべきだと思う。

東京オリンピック・パラリンピックについては、オリンピックだけに限らず、ラグビーワールドカップは福岡での開催もあった。入れてほしいのは、古賀市出身のスポーツ選手が福岡選手だけではなく比江島選手もいらっしゃる。「古賀市出身のアスリートを誰か知っていますか」という項目をいれていくと、ああそうだ、いたな。となる。そういうことが機運の醸成になるのでは？オリンピック・パラリンピックはすごく遠いが、古賀市出身のというとすごく親近感がわく。知っている・知らないという項目があるとアンケートとして良いのではないか。

(木下会長)

石田委員は10年ほど前には事務局の立場におられたので、このような意見をいただけたかなと思う。他にありませんか。

(橋本委員)

私が気になっているのは、WEBアンケートということ。アンケートは回答した人の属性を調べることと、意識や行動を調べることの2つ。それが、どう関連しているかということ調べていくことになるが、WEBアンケートは単純集計しかできないので、手法としてどうかと思う。

(吉田委員)

健康介護課でもヘルスアッププランを作っており、アンケートを実施する。WEBアンケートを作ってみたが、クロス集計は可能だった。

同じシステムを使用しアンケートを作成するので、問題ないと思う。

(石田委員)

何分くらいで回答できるか？

(吉田委員)

アンケートを専門にしている企業の方に聞くと、回答時間は5分でも長いといわれる。前回のアンケートから、手直しをしたり省いたりしたが、超えてしまう。評価・指標で上がっているものは同じように聞かなくてはならないが、それ以外については、これから何をしていかなければならないのかという視点に立って、ほかのもので把握ができるものは利用しながらやらないと、限界を感じている。

(橋爪委員)

ペーパーで戻ってきたデータと、WEBで回答のあったデータは一つになるのか。

(事務局)

おっしゃるとおり。集計に苦慮するかもしれないとは感じている。

(木下会長)

ぜひ、皆さんの意見を参考にしてください。

(吉田委員)

健康介護課でのアンケートは、このアンケート結果を参考にさせていただくので、運動に関する項目をかなり外した。同じように、健康介護課のアンケートも利用できる場所はあると思うので、すり合わせる。

(石田委員)

何が欲しいか明確にするべき。10年前は、スポーツをしている人は、地域での活動に参加しやすいというデータをクロス集計で出した。スポーツをしたい人に結び付ける項目を選別すれば、もう少し簡素化するのでは。

(斎藤委員)

歩いてんどうの質問は必要か？

(事務局)

計画の指標となっているため、実態の把握を行いたいと考える。

(斎藤委員)

何回続けても意味のあるアンケート内容ではないと思う。近くに住んでいる人は知っていると思うが、住んでいるところによって結果が違うアンケートになってしまう。

50%まで上げることを目標としていることも、連れて行かないと行けない人もたくさんいる。何のためかというのが良くわからない。

(石田委員)

10年前に「歩いてんどう」ができた当時に聞くべき項目だったと思う。

(木下会長)

多田委員何かご意見はないですか。

(多田委員)

実施する方法としては、いろいろ聞きたいことがあるかと思う。吉田委員が言われたように、庁舎内で効率の良い方法を取っていただくのが良いかと思う。

アンケートはどこの部署でもやっている。受ける側の市民が混乱しないように配慮いただきたい。

(橋本委員)

両方で利用するのであれば、クロスをかけるところまで考えて、削るなどしたほうが良いと思う。

(木下会長)

ほかにありませんか。

(石田委員)

第2次スポーツ推進計画の認知度について、かなり計画の広報をしていなければならないと思う。この5年間の間に、こういったところで計画の説明をしていたのか、もしあれば聞きたい。

(木下会長)

スポーツ協会の総会では出していたが、それ以外はわからない。

(事務局)

確認する。

(木下会長)

ご意見がなければ、スポーツ月間・アンケートに関して意見を生かしてやっていただければと思う。

## 7. その他

(事務局)

中学校体育施設の日曜開放について、中学校部活動は原則水曜にと日曜日が休みとなっている。10月1日より中学校の体育施設を日曜日のみ開放することとしている。これまでの体育館の開放をしていたが、これに加え、古賀中学校は野球場とテニスコート、古賀北中学校は武道場とテニスコート、古賀東中学校は武道場を追加する。

6月議会に条例の改定を上程し、議決いただいている。事務局からは以上です。

(斎藤委員)

どこの中学校に入学したかによって、無い部活がある。どの学校にどの部活があるのか、それがわからないと継続性がない。

古賀市の小中学校のクラブ(部活)の一覧表があれば資料であればと思う。

(木下会長)

以上で、古賀市スポーツ推進委員審議会を終了します。ありがとうございました。以降事務局、お願いします。

## 8. 閉会

(事務局)

次回開催は2月中旬を予定している。